

ふたば

第3章

地区(行政区)紹介

震災前の17地区

震災前の双葉町は17地区、それぞれに特徴があった。行政区長と住民が文化財や伝統行事を守り、育み、住み良い地域づくりに励んできた。広報ふたばで震災前に、「教えてください地区のこと 見て聞いて〇〇地区」の企画を連載した。それらを再編集して、思い出に残る震災前の双葉の地域ごとの情景を残していきたい。



震災前の双葉町は
こんな町でした

広報
ふたば

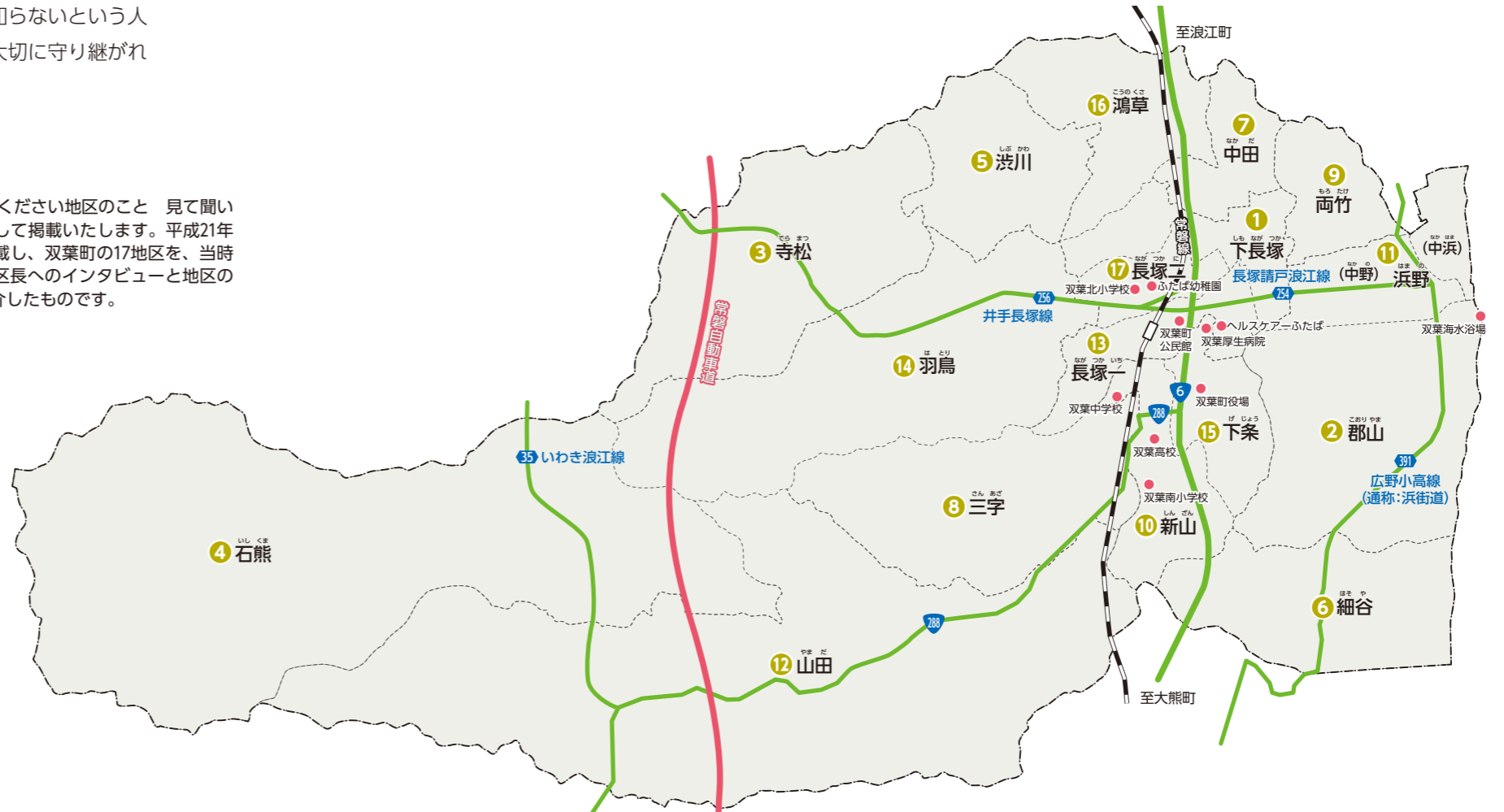
「教えてください地区のこと」

見て聞いて ○○地区

双葉町に住んでいても自分の住んでいる地区以外のごことはあまりよく知らないという人が多いのではないのでしょうか。広報ふたばでは、地区の人に親しまれ、大切に守り継がれている伝統や特色ある活動、その魅力について紹介いたします。

※「広報ふたば」紙面「教えてください地区のこと 見て聞いて○○地区」を抜粋、再編集して掲載いたします。平成21年7月号から22年11月号まで連載し、双葉町の17地区を、当時の広報ふたば発行時点の行政区長へのインタビューと地区のシンボルの社やお堂などを紹介したものです。

- 1 下長塚地区 Vol.409 平成21年7月号
- 2 郡山地区 Vol.410 平成21年8月号
- 3 寺松地区 Vol.411 平成21年9月号
- 4 石熊地区 Vol.412 平成21年10月号
- 5 渋川地区 Vol.413 平成21年11月号
- 6 細谷地区 Vol.414 平成21年12月号
- 7 中田地区 Vol.415 平成22年1月号
- 8 三字地区 Vol.416 平成22年2月号
- 9 両竹地区 Vol.417 平成22年3月号
- 10 新山地区 Vol.418 平成22年4月号
- 11 浜野地区 Vol.419 平成22年5月号
- 12 山田地区 Vol.420 平成22年6月号
- 13 長塚一地区 Vol.421 平成22年7月号
- 14 羽鳥地区 Vol.422 平成22年8月号
- 15 下条地区 Vol.423 平成22年9月号
- 16 鴻草地区 Vol.424 平成22年10月号
- 17 長塚二地区 Vol.425 平成22年11月号(最終回)



田園風景が広がる、営農施設の中心的地域

しも なが つか 下長塚地区

下長塚地区は、谷沢町、三ノ宮、観音堂、寺内前、福田迫、上迫からなる地区です。



有害対象狩猟鳥獣捕獲隊長でもある瀧澤さん宅には捕獲したたくさんのイノシシのしっぽが…



▲寺内阿弥陀堂
本尊 阿弥陀如来(町指定文化財)



▲三ノ宮神社(母乳の神様)
祭神 三宮大明神、大梵天王



▲観音堂(子宝の神様)
本尊 十一面観世音 祭神 斉稲神

行政区長さんに聞きました

下長塚地区は戸数58戸と少ないながら、強い結束力で町民体育祭では、毎年上位を維持しています。

また、60歳以上の地区民全員が入会している「むつみ会」では、年3～5回の環境美化活動と年3回の旅行(内1回は1泊2日)を行うなど、各世代がそれぞれに活躍しています。

小字に「三ノ宮」や「観音堂」とあるように三ノ宮神社や観音堂、阿弥陀堂などの貴重な文化財が祭られ、大切に保存されている下長塚地区。

皆さんも地区に足を運んでいただいで下長塚地区の歴史を肌で感じてみませんか。



西内 重夫 行政区長

こおり やま 郡山地区

2

郡山地区は、西原、本風呂、堂ノ上、塚ノ腰、五番など28の小字からなる地区です。

▶朝に夕に登下校の子どもたちを見守っている見守り隊の皆さんと子どもたち



行政區長さんに聞きました

古墳時代後期のもと考えられている沼ノ沢古墳群・塚ノ腰古墳群、奈良・平安時代に造られ、標葉郡の郡衙（郡の役所）と考えられている郡山五番遺跡、郡山貝塚など貴重な文化財が点在する歴史ある地区です。

地区全体のまとまりがあり、子ども見守り隊を全町的に取り組む以前から、登下校時の子どもたちを見守り続けています。また、自分たちの地区を自分たちで守れるよう、地区防災組織をいち早く立ち上げ、年1回の講習会や防災訓練を開催しています。地区の皆さんには草刈りなども積極的に行っていただき環境美化に努めています。

今日も見守り隊の声が聞こえます。「おはようございます!」



齊藤 芳彦 行政區長



▲平成19年に改築された薬師堂（火の神様）



▲郡山神楽保存会の皆さんにより継承されている神楽



▲八幡神社 祭神 菅田別命

てら まつ 寺松地区

3

寺松地区は、寺沢、松倉の大字と南迫、竹柄山、葉ノ木谷地など9つの小字からなる地区です。

▶8月13日に盛大に行われた盆踊り



行政區長さんに聞きました

寺松地区は、庭先にイノシシが迷い込む自然豊かなところ。旬の時期になると、ブルーベリー、モモ、ナシといった果物が枝もたわわに実ります。以前は、リンゴも栽培していたとか。

寺松地区には、地区の皆さんにより新しく生まれ変わった日吉神社があります。その日吉神社で、4月には、地区を挙げてお祭りを開催し、同じ日に公民館で敬老会が行われ多くの方が参加します。また、夏の盆踊りも全戸で協力して開催しています。

高速道路が通る寺松地区。高速道路を利用するには穏やかで団結力のあるこの地区を思い出してみたいかがでしょうか。



石田 翼 行政區長



▲龍頭山仲禅寺 本尊 釈迦牟尼仏



▲日吉神社 祭神 大山咋命 日本武尊



▲フタバフルーツランド ブルーベリー畑

いし くま 石熊地区

4

石熊地区は、八房平、節辺迫、七日沢、垢離取場など11の小字からなる地区です。



十萬山登山道入り口▶

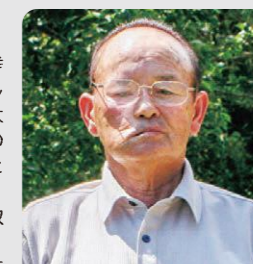
行政區長さんに聞きました

言い伝えによると、昔、石熊地区は山の幸に恵まれ、熊をはじめ色々な諸動物が生息していたそうです。山から下りて来た熊が、大きな石の上でお産をしたということからその石を安産の石として信仰し、地名もこのことから石熊と呼ばれるようになりました。

今でも七日沢と孫沢への分かれ道には、取り上げ石が祭られています。

また石熊地区には、古くから引き継がれてきた「じゃんがら念仏踊り」があり、石友会の皆さんが8月14日に新盆の家をめぐって、仏前、庭先で踊りを奉納しています。

春には石熊活性化公園（桜公園）の桜が満開になり、季節に応じてショウブやアジサイなど、数多くの花々が咲き誇る石熊地区は、花の都であるイタリアのフィレンツェを思い起こします。石熊地区で心をいやしてみませんか。



山本三喜雄 行政區長



▲石熊の地名の由来となった取り上げ石



▲古くから石熊地区に伝わるじゃんがら念仏踊り



▲山祇神社 祭神 大山祇神

しぶ かわ 渋川地区

5

渋川地区は、岩迫、広畑、羽竜前、房ノ内、宮渡、西カノなど25の小字からなる地区です。

▶へら持ち地蔵：以前は田んぼの中にありましたが、ほ場整備のために移動されました



行政區長さんに聞きました

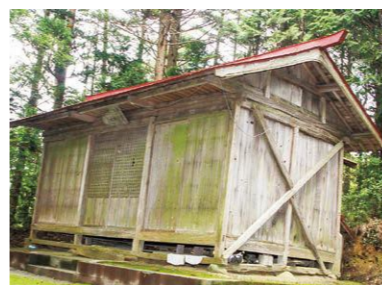
渋川地区は、町の北部に位置し、稲作農家がほとんどで、地区内の集まりでも稲作の話題で盛り上がるほど。また、シイタケ栽培なども行われています。渋川シイタケは、原木を使わずポットで育てる特殊なもの。出荷を始める10月下旬からは、農協や福島市のシイタケ市場に出荷します。

この地区に存在する「へら持ち地蔵」にはこんな由来が。田植えの休憩時間に食事を出すため準備していたお嫁さんが、「おい、ご飯」といわれ足に力を入れたとき、「プツ」とおならが出てしまいました。それはそれは恥ずかしくて、へらで顔を隠してじっとしていたら、お地蔵様になってしまったという言い伝えがあります。

現在まで稲作が盛んなのは、稲作にまつわる「へら持ち地蔵」が渋川地区を見守っているからでしょうか。香り松茸、味シメジ、幻の渋川シイタケ。旬のこの時期に召し上げてみませんか。



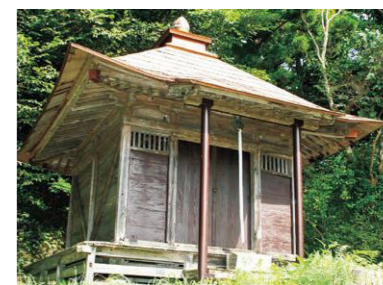
朝川 洋一 行政區長



▲愛宕神社 祭神 伽具突智彦命



▲渋川芸能保存会の皆さんにより継承されている神楽



▲薬師堂 8月11日のお祭りには無病息災や新型インフルエンザにかからないようにお祈りしました

ほそや 細谷地区

6

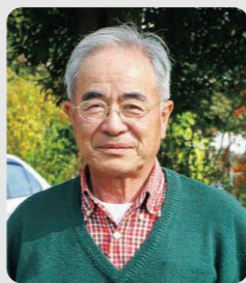
細谷地区は、葉ノ木沢、大森、熊ノ沢、陳場沢、陳場下など9つの小字からなる地区です。



▶地区の皆さんで花を植え、手入れをしている花壇

行政區長さんに聞きました

細谷行政区は、戸数が46戸と町内でも少ない方の地区になりますが、そのメリットをいかした団結力の強さと友愛の精神で、行政区が主体となった先進的な取組を率先して立ち上げています。これまで、地区全体での新生活運動を1月から取組み始め、自主防災組織は7月に認定されました。子ども育成会や婦人学級、環境美化委員などが、一週間交替で手入れを行っている花壇には600本の花々を植えました。明治の初め頃、細谷地区に始めに移住してきた4～5軒が五穀豊穡を願って建立した羽山神社。例大祭を春と秋の年2回開催し、神主さんと呼んでお慕いしています。羽山神社は高い土地を好む神社だそうで、ここ細谷地区の羽山神社も高くて見晴らしのよい高台から地区を見守っています。多趣味の方が多く、趣味でつくった竹箒(ぼうき)を、町内の小学校に寄付する方もいらっしゃる細谷地区。年末の大掃除には大活躍すること間違いありません。



大橋 庸一 行政区長



▲高台に建つ羽山神社
祭神：羽山戸命 大山祇神
はやまとのみこと おおやまつみのかみ



▲地区のゲートボール場では、他の地区の人も集まって練習に励んでいます



▲今年の干支である牛を町内で一番多く飼育している畜産農家

なかだ 中田地区

7

中田地区は、大仏前、宮田、川原田、西迫、館腰など12の小字からなる地区です。



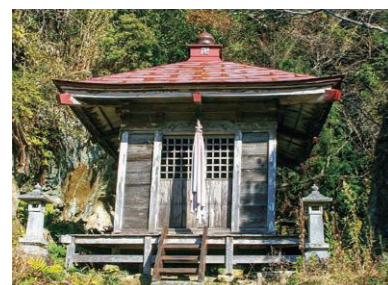
▶地区のゲートボール場には楽しい笑い声が響いています

行政區長さんに聞きました

中田行政区の戸数は30戸と少なく、自主防災会は組織されていませんが、自宅にすることが多い人たちが中心となって、「地区の財産は地区の人で守る」という取組を行っています。地区の皆さんは、団結力が強く、隣あっている鴻草地区や両竹地区の人とも協力合っています。こんな中田地区にはある伝説が語り継がれています。地区を流れる中田川には「河童伝説」という言い伝えがあります。川中さんの家の与四郎さんは魚釣りが好きで、毎日のように中田川に行き釣りをしていると、ある日河童が浮いてきました。河童の家に連れられ、皮膚病によく効く薬の作り方を教わり、酒がわいてくる杯をもらったそうです。しばらくして誰にも言うてはいけないという河童との約束をやぶってしまい、酒は出なくなりましたが、その杯は、鴻草の鹿島神社に残っていると。昔話の里「中田地区」では、これからも新しい「お話」が生まれることでしょう。



遠藤 實 行政区長



▲中田地区を見守っている如意輪観音
にょいりん



▲毎年2月の初午の日に例大祭が行われる稲荷神社
祭神：倉稻魂神
うらのみたまのかみ



▲地区の中央を流れ、河童伝説が生まれた中田川

さんあざ 三字地区

8

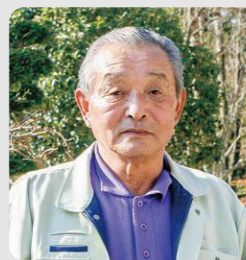
三字地区は、前田、水沢、目迫の大字と反町、沢田、山神前、愛宕下など44の小字からなる地区です。



あまざけ地蔵▶

行政區長さんに聞きました

三字地区は名前のとおり前田、水沢、目迫の3つの大字からなる地区です。地区の結束力は固く、町民体育祭や町の体育行事では常に上位を占めています。また、三字地区の夏を彩る盆踊り大会は、8月13日には大杉会が中心となって稲荷神社の境内で、8月16日には二三会が中心となって目迫の観音堂の前の広場で行われます。毎年、郷里を離れた人も遠くから集まってくるほど、地区を愛する人が多いそうです。地区の中央にある前田の大スギは、船の位置取りの目安とされていたため、隣にある稲荷神社に漁師が参拝にくるほど地域に根ざした名所となっています。この貴重な文化財を後世に引き継いでいくため、隣組の皆さんが輪番で月に一度、前田の大スギのある神社の境内の清掃活動を行っています。屋久島の縄文杉を凌駕(りょうが)する大きさに成長するまで、大切に守り育てていきます。



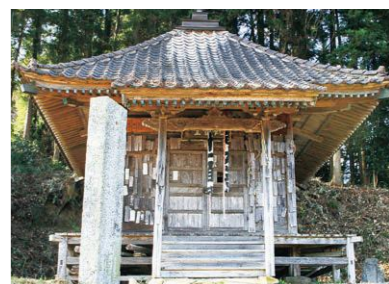
加村 英敬 行政区長



▲樹齢約1,000年の前田の大スギと稲荷神社



▲前沢婦人会の皆さんにより継承されている女宝財踊り



▲目迫の観音堂
本尊 十一面観世音

もろたけ 両竹地区

9

両竹地区は、花ノ木、農師町、稲荷迫、増田、細田、一町田、深町など12の小字からなる地区です。



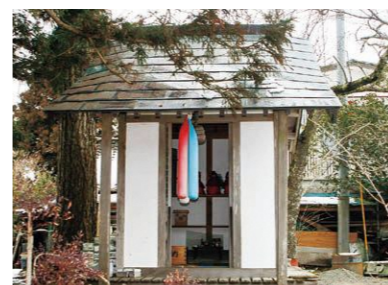
齊藤区長さん宅には両竹地区にまつわる貴重な資料が大切に保存されています

行政區長さんに聞きました

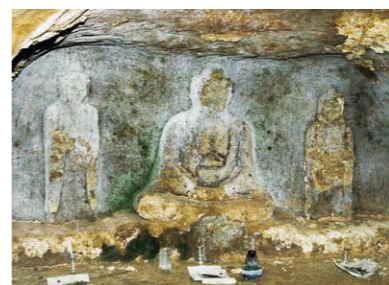
両竹地区には「しろかき地蔵堂」にまつわるこんな言い伝えがあります。昔々、北観音堂の石川さんが一人で田んぼの代かきをしていた。おかげで代かきもはかどったので、お礼をしようと子どもを探してみましたが見つかりませんでした。見渡すと、お地蔵様のところまで泥の足跡が続いていたのだそうです。また、両竹地区には「七不思議」の言い伝えも。①二又の竹(地区の名前の由来となった1本の幹が左右に分かれている竹がある)、②墨染の桜(京都から来た僧侶が植えたといわれている)、③邑地(むらち)(村内の土を取ると災いに遭う)、④田螺(たにし)(左巻きの田螺が生息している)、⑤疫病除(村内の人が流行病にかかっても伝染しない)、⑥難産除(村内にはお産で亡くなった人がいない)、⑦火難除(村内で出火しても類焼することがない)。墨染の桜は4月23日頃に満開になります。両竹遍路の散策に出かけてみませんか。



齊藤 六郎 行政区長



▲しろかき地蔵堂 本尊：地蔵尊



▲両竹磨崖仏



▲諏訪神社 祭神：建御名方神
たけのみかたのかみ

新山地区

新山地区は、北広町、本町、根小屋、広町、東館などの小字からなる地区です。



▲双葉町のシンボル 清戸迫横穴の壁画デザイン

行政區長さんに聞きました

新山地区は、町の中心に位置し、戸数も320戸と町内最大の地区です。高校生や日々の買い物客で賑わう新山商店街は、飲食店や服飾店などで活気あふれます。また、双葉南小学校、双葉中学校、双葉高校と町内の3つの学校がそろい、子どもたちの元気いっばいな声が響き渡ります。このような中、新山地区では、日本の未来を担う子どもたちの安全を確保するため、見守り隊の皆さんが通学ラインに沿って朝、夕に子どもたちに声をかけながら登下校を見守っています。見守り隊の皆さんは子どもたちから元気をもらっているとか。

老人クラブも活気があり、女性部では、毎年南小学校の新入学児童に干支にちなんだ手作りのマスコットをプレゼントしています。

今となっては町内指折りの繁華街となりましたが、歴史的文化財や戦時中の爪痕が今なお残されています。現在、中央公園に建つ「忠魂碑」は、以前、天王山（現在の東京電力㈱双葉社宅）にあって双葉郡の戦没者の慰霊碑として祭られていることもそのひとつです。



竹原 天 行政區長



▲新山神社 祭神：大山祇大神
おほやまつみおおかみ



▲自性院 本尊：大日如来
たいじちんによらい



▲日本の名門高校ベスト100に入った県立双葉高等学校

山田地区

山田地区は、山田、松迫の2つの大字と西郷内、橋向、小林、鹿島平、萩平、羽黒沢など56の小字からなる地区です。



東羽黒のため池



安倍の三本桜の樹齢約1200年の木

行政區長さんに聞きました

山田行政区の茗荷沢、深沢、羽黒沢には大きなため池があります。中でも羽黒沢にある東羽黒池は、「1に唐沢（鹿島区）2に羽黒（双葉町）3に坂田（現在の浪江町酒田）の空堀」と言われる相馬中村藩の三大堀の1つにあげられているほど大きな堤です。山田、前田、新山、郡山、長塚、下長塚、中田、岡竹、浜野地区に灌漑用水を供給し、それぞれの耕作地を潤しています。一方、茗荷沢のため池にはこんな悲しいお話が…ため池工事が難航したため、工事に従事した春林忠平さんが生きながらにして埋められる人柱となりました。そのおかげで、何とか工事が完成したと言えられています。旧街道沿いには、歴史を感じさせられるほど大きな桜の木が三本あり（安倍の三本桜）、山田地区のシンボルとして住民に愛されています。行政区の財産を自ら守るため自主防災組織を立ち上げたり、工事を成功させるために人柱となったり、町全体のために堤を整備したり。緑豊かなこの季節、山田行政区を訪れ、相手のことを思っている自分の持つすべてを惜しみなくつぎ込む「奉仕」の精神をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。



渡部 一美 行政區長



▲八幡神社 祭神 菅田別命
はちたけのわかみこと



▲人柱となった春林忠平の碑



▲薬師堂 本尊 薬師如来

浜野地区

浜野地区は、中野、中浜の大字と宮ノ脇、竹の花、羽山前、高田など17の小字からなる地区です。



▶元気な子どもたちと見守り隊の皆さん

行政區長さんに聞きました

浜野行政区は地区のまとまりがあり、何事にも一致団結して取り組んでいます。たとえば、8月14日、八幡神社の境内において、「はまなす会（芸能保存会）」のメンバーが中心となって盆踊り大会を開催していますが、境内に入りきれないほど大勢の参加者でにぎわいます。その上、毎年、志向を凝らした仮装をして踊る婦人学級の皆さんの姿は、日々の憂いを忘れさせてくれるほどです。盆踊りで子どもたちをやぐらにあげて演奏するようになったのは、浜野行政区が始まりだとか。

海に面した地区ですから、防災意識の高さも目を見張ります。自主防災組織は立ち上げておりましたが、防災訓練と津波警報による避難を実際に行ったことで、新たな課題が見つかりました。今後、課題解決に向けて防災組織のさらなる充実を図っていきます。地域一丸となって町を盛り上げる「双葉のバイオニア」浜野行政区にぜひお越しくください。



菅本 洋 行政區長



▲八幡神社 祭神 菅田別命
はちたけのわかみこと



▲毎年、大勢の参加者で盛り上がる盆踊り大会



▲塩電神社

長塚一地区

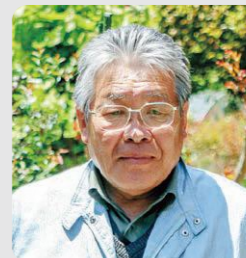
長塚一地区は、町、鬼木、町裏、深谷、町西、蛭子堂、観音堂、町東、谷沢町の小字からなる地区です。



▶子どもたちを見守る活動「下踏切付近」

行政區長さんに聞きました

長塚一行政区は、新山行政区に並んで戸数がかもとも多い地区です。毎年1月には、町の一大行事である伝統の「ダルマ市」が長塚商店街を中心に開催されます。奉納神楽大会や子ども神輿（みこし）、ダルマ神輿など、子どもから大人まで協力し合っでダルマ市を盛り上げます。8月の盆踊り大会は、町商工会の「農商楽市」と共同で行い、大勢の人々で賑わいます。昨年夏以降、長塚二行政区と合同で、双葉北小学校の通学路である杉下踏切付近で、子どもたちが安全に下校できるように見守り活動を行っています。また、子供育成会によるバドミントン大会やクリーンアップ作戦後のレクリエーションなどを通して青少年の健全育成に努めるとともに、明るい挨拶があちこちで聞かれる地域づくりに取り組んでいます。環境美化活動を行っている長塚長寿会の皆さんは、6号線脇の花壇を色々な草花で彩り、通る人の心を癒してくれます。おもてなしの心で皆さんをお待ちしています。



木幡 智清 行政區長



▲大聖院不動堂 本尊 不動明王



▲初発神社 祭神 天之御中大神
あまのなかつおみのおおかみ

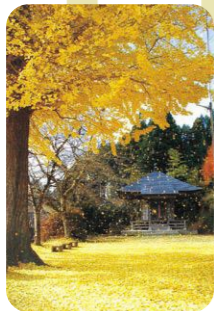


▲真宗大谷派 長命山正福寺 本尊 阿彌陀如来

名高い米処と多くの参詣が訪れる奥相三十三観音

はとり 羽鳥地区

羽鳥地区は、下羽鳥、上羽鳥の大字と南迫、北沖、大道、沢入、榎内など22の小字からなる地区です。



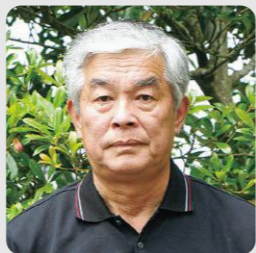
観音堂のイチヨウ▶
樹齢約120年

行政区長さんに聞きました

羽鳥行政区は、下羽鳥と上羽鳥の行政区が合併して1つになった地域で、昔から1浦(小高区福浦地区)2羽鳥、3熊川(大熊町熊川地区)と、おいしいお米の取れるところとして言い伝えられています。地区の皆さんも農業に従事している方が多く、米づくりや野菜、花づくりなどが盛んに行われています。下羽鳥は4年前に、上羽鳥は昨年、営農組合を立ち上げ、農地の有効活用を図るため、大豆などの集団転作に取り組んでいます。

自然豊かで、夏には田んぼにホタルが飛び交い、空には無数の星の輝きが見える羽鳥地区には有形無形文化財も数多くあり、中でも奥相三十三観音第二十一番霊場札所である観音堂には、たくさんの参詣者が訪れます。また、8月には下羽鳥地区、上羽鳥地区でそれぞれにおいて盆踊りが行われ、大勢の人々にぎわいます。秋には観音堂の境内にあるイチヨウの木のリフトアップを計画しているとか…。

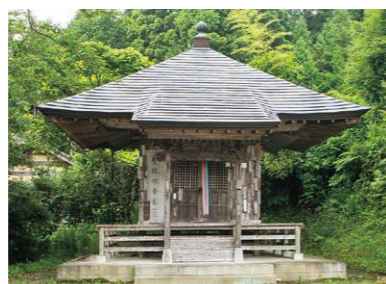
ぜひ皆さんもお出かけになり、イチヨウの木を見上げながら羽鳥地区の自然と歴史にふれてみませんか。



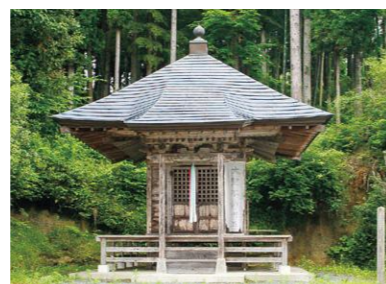
松木 秀男 行政区長



▲昨年改修を行った阿弥陀堂
本尊 阿弥陀如来



▲観音堂(如意山普門院)
本尊 阿弥陀如来



▲不動堂
本尊 大聖不動明王

医療、福祉と介護の連動型ハイブリット地域

げじょう 下条地区

下条地区は、大字が新山で下条、牛踏、久保前、蓬田、萩迫、弓迫、前沖、漆迫の小字からなる地区です。

▶8月13日に盛大に行われた盆踊り大会



行政区長さんに聞きました

下条行政区は、双葉町の人口が減少している中で、行政区の人数が年々増加している地域です。中でもふたばパークヒルズには約50人くらいの子供たちがおり、町民体育祭のリレーの選手を決めるのに予選会を行うほどです。このような若い力と団結力で毎年上位入賞を果たしています。

子どもは地域の宝。子どもたちが安心して登下校できるように、保護者や地域の方が、毎日、見守り活動を行っています。一方、地震や豪雨など、自然災害が心配されている中、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を高め、年内に自主防災会を設立するための準備を進めているところです。当地区には、特別養護老人ホーム「せんだん」がありますので、入居者の安全確保を優先に被害の防止と軽減のための活動を行っています。

また、地域のコミュニティーを深めるため、盆踊り大会を毎年、新山行政区と合同で行い、大勢の参加者で華やかな盆踊りが繰り広げられています。下条地区の子どもの元気をもらいに、坂を上ってパークヒルズを訪れる健康ウォーキング「ふたばパークヒルズダイエット」に挑戦してみませんか。



藤田 博司 行政区長



▲常光山 妙勝寺
本尊 釈迦牟尼佛



▲熊野三社



▲甘酒地藏

鴻草磨崖仏と五穀豊穰祈願の源弱山の火明かし

こうのくさ 鴻草地区

鴻草地区は、北布田、北々斗迫、中谷地、町、町後、山崎、台、高田など33の小字からなる地区です。



▶足を守る神様
足尾様

行政区長さんに聞きました

鴻草地区は中田川を渡ると街道沿いに立派な家並みが続く地域です。国道6号脇には「足尾様」という足を守る神様が祭られています。そして、磨崖仏や江戸時代の豪商大黒屋など数多くの価値ある文化財に触れることができます。毎年8月13日には無病息災、五穀豊穰を願って「源弱山の火明かし」が行われます。古くから伝わる行事で源弱山の中腹に「山」の字を逆さにしたように火が炊かれます。今年も夏の夜空を焦がす幻想的な火明かしを一目見ようと、多くの方が訪れました。

また、鴻草地区は過去に町民体育祭で総合優勝したことがある結束力の強い地域です。現在も、60歳以上を会員とする「むつみ会」や軽登山クラブ「山楽会」が結成されるなど、地区の皆さんはいつも活力にあふれています。そんな中で最近、鴻草地区でブームになっているのは「日本ミツバチの養蜂」です。庭先などで日本ミツバチを飼い、養蜂話に花を咲かせます。

ロマンを追って、豊かな歴史と甘い香りのする鴻草地区を訪ねてみてください。



高松 平 行政区長



▲薬師瑠璃光如来 本尊 薬師如来



▲鴻草磨崖仏



▲鹿島神社 祭神 武甕槌神
たいづちのみかみ

小学校や幼稚園、元気な声が響きわたる地域

ながつかに 長塚二地区

長塚二地区は、原田、越田、西宮下、寺内前、寺内迫、北目など9つの小字からなる地区です。



▶お花見まつり

行政区長さんに聞きました

長塚地区は越田住宅団地の分譲などにより、世帯が増えたことから、戎川を境に南側を長塚一行政区に、北側を長塚二行政区に分けられました。

長塚二地区には白山山があり、頂上には、白山神社、胡桃稲荷神社、秋葉神社の3つの神社がまつられており、地域の神様として大切に守り継がれています。

また、越田街道踏切近くには、羽鳥から熊川(大熊町)までを治めていた旧郡役所跡(長塚陣屋)があり、昔は政治の中心地となっていました。

地域の絆を深めるため、毎年、夏には「盆踊り大会」が盛大に行われ、昨年からは有志により桜の花が咲く時期に「お花見祭り」が開催されるなど、子どもからお年よりまでの交流が図られています。

また、ふたば幼稚園の北側の山には、住民の方が桜を始めとした四季折々の花の木を植え、福島市にある花見山のようにしたいと整備しています。これから双葉町の観光名所の1つになるのではないのでしょうか。春先、いろいろな花が咲き競う「双葉町の花見山」をぜひたずねてください。



原中 良博 行政区長



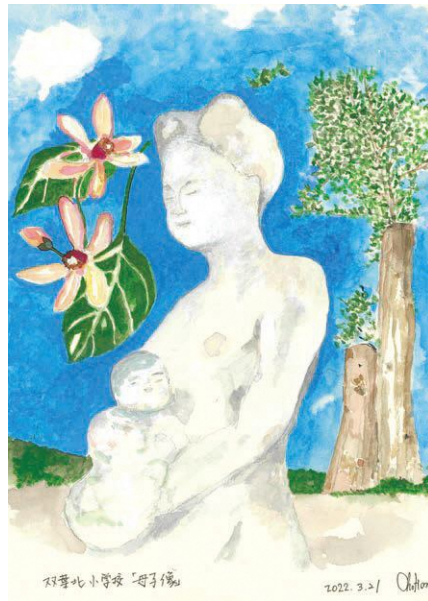
▲盆踊り大会



▲白山神社



▲旧郡役所跡の表示板



双葉北小学校の母子像は、昭和34年7月、福島県相馬市出身の小谷野(旧姓・斎藤)匡子様が制作されたもの。当時、父親の斎藤計氏が北小の校長をされていたことや、小谷野さんが東京芸術大学芸術学科を卒業されていたこともあり、北小の環境整備と情操教育の一助にと母子像を制作し寄贈した。